

# 第4期通常総会議案書

日 時：2007年6月23日 午後2時～3時半

場 所：亀の井ホテル

(菊池郡大津町引水 810 TEL096-294-3301)

## 議題

第一号議案 2006年度事業報告並びに決算報告承認の件

第二号議案 2007年度事業計画及び収支予算案決定の件

第三号議案 役員（監事）改選の件

第四号議案 借入金最高限度額決定の件

第五号議案 定款変更の件

## 第一号議案 2006年度事業報告並びに決算報告承認の件

### 一、はじめに

昨年の6月3日に開催された第3期通常総会で決定頂いた活動方針及び事業計画は骨子以下の通りとなっていました。

### 一、活動方針

- ①全体としては NEDO のバイオマスエネルギー地域システム化実験事業の推進を中心に進める。
- ②バイオマスタウン構想の具体化及び南阿蘇村に於ける「菜の花プロジェクト」の具体化に取り組む。
- ③上記とも関連付け、昨年から取り組んでいるストローベールハウスを完成させ、NPO 法人パーマカルチャーなどとも連携し、南阿蘇村バイオマスセンターとしての活用を具体化する。
- ④環境省や(財)阿蘇グリーンストック及び牧野組合などと連携し、阿蘇草原再生事業の推進に取り組む。
- ⑤一般市民や会員団体などから人材を受け入れ、専門家の協力も得て、バイオマスの利活用を推進できる人材の育成を行う。
- ⑥会報を充実・定期化し、会員とのコミュニケーションを図り、会員の拡大に取り組む。
- ⑦その他  
「エコテクノ 2006」や各自治体のバイオマスセミナーなどに協力し、取り組む。

### 二、2006年度事業計画

#### <特定非営利活動に係る事業>

#### (一) 広報啓発事業

- (1) 会報を年4回を目途に定期発行に取り組みます。

事業費 120,000円

- (2) ホームページのリニューアルに取り組みます。

事業費 150,000円

- (3) 南阿蘇村バイオマスタウン構想の具体化に向けた菜の花プロジェクト推進調査事業に取り組めます。

事業費 300,000円

- (4) エコテクノ 2006 への参加

事業費 400,000円

- (5) 各自治体が開催するバイオマス関連セミナーなどの支援事業に取り組めます。

年4~5回 事業費 35,000円

- (6) 視察・見学会の受け入れ

年5~6回 事業費 12,000円

#### (二) バイオマス利用地域モデル推進事業

- (1) 草本系バイオマス利活用システム実験事業 (NEDO からの委託事業) に取り組めます。

事業費 28210,000円

- (2) 南阿蘇バイオマスセンターとしてのストローベールハウス建設事業を仕上げます。

事業費 600,000円

- (3) 野草の利活用推進に向けた野草活用マニュアルの作成と普及活動 (環境省からの委託事業) に取り組めます。

	事業費	1,400,000 円
(4) バイオマス利活用人材育成事業に取り組みます。		
	事業費	300,000 円
(5) 今年度もメタン発酵消化液散布実験に取り組みます。		
	事業費	300,000 円
(6) 「阿蘇草原再生協議会」野草資源小委員会の運営を担当します。		
	事業費	150,000 円
(三) 交流事業及びバイオマス関連製品の普及促進事業		
(1) 各種イベント・セミナー等への講師の派遣に取り組みます。		
	年 4～5 回 事業費	75,000 円
<その他の事業>		
(1) バイオマス利用に関する書籍・資料の販売		
	年 4～5 回 事業費	28,000 円
(2) 草の販売に取り組みます。		
	随時 事業費	600,000 円

## 二、活動の概況

### (一) バイオマスエネルギー地域システム化実験事業について

- (1) 実質上 2006 年度からの取り組みとなった NEDO のバイオマスエネルギー地域システム化実験事業は、日本で初めての実験事業であることもあり、採草・収集・運搬機械の選定とシステム設計、牧野組合への協力要請、オペレーター組合の立ち上げなど、最初かかなり大変な取り組みとなりました。
- (2) 又、NEDO への報告資料の整理なども膨大な事務量となり、経理事務としても一昨年の 3～4 倍の仕事量となりました。
- (3) 野草の収集量は当初予定の 1/2 弱の約 220t にしかありませんでしたが、阿蘇市をはじめ、コンソーシアムに参加頂いている他団体のご協力もあり、何とか実験事業の第 1 年度目の目的は達成できたのではないかと考えます。

具体的な成果としては

- 1、6 つの牧野にご協力頂き、約 58ha の草地の刈り取り・集草を行なうことが出来、今後の足がかりが出来ました。
- 2、採草作業を専属的に行って頂けるオペレーター組合の協力体制ができました。
- 3、それぞれの地形特性に合わせた採草・集草機械を選定し、採草・集草作業を行い、その結果、実際の現場でのそれぞれの機械の使い勝手、特性がかなり明確になってきました。
- 4、実際の野草の収量が当初の計画よりもかなり少ないことが判明しました。
- 5、初歩的段階での収集・運搬コストの貴重なデータが得られました。

### (二) バイオマスタウン構想の具体化及び「菜の花プロジェクト」の具体化について

- (1) バイオマスタウン構想の具体化については、南阿蘇村に於いて、地元の各種団体・機関参加の委員会検討が本格的に始まり、KBF からは理事長が委員として検討に参加してきました。
- (2) 「菜の花プロジェクト」については、活動具体化に向けた各種補助金への助成申請を行なう

と共に、並行して昨年12月と今年1月に南阿蘇村に要望書及び計画書等を提出し、具体化へ向けた協議を行なってきました。

しかし、2006年度という意味では実働までは至っていません。

企画提案書 別紙を参照下さい

### (三) ストローベールハウスの建設について

- (1) 今年度も計8回のワークショップを行い、昨年10月南阿蘇村のストローベールハウスを一応建物としては完成させました。
- (2) その利活用については、菜の花プロジェクトの活動拠点を兼ねた「南阿蘇村バイオマス学習センター(仮)」としての利活用計画を考えてきましたが、トイレ及び上下水道設備の問題と予算の問題で暗礁に乗り上げています。

### (四) 草原再生事業について

- (1) 阿蘇草原再生協議会の全体構想策定作業部会に参加し、他団体とも協力し、阿蘇草原再生の全体構想を策定しました。
- (2) 又、KBFが事務局を担当した野草資源活動委員会は、NEDO事業とも関連づけて2006年度は1回開催し、検討を進めてきました。
- (3) 大変苦勞しましたが、環境省の助成を受け、野草活用マニュアル及びパンフレットの製作を進め、野草の利活用の普及・啓発に取り組みました。  
パンフレット及びマニュアルは別紙資料を参照下さい。

### (五) 人材育成について

今年度はNEDO事業にほとんどの体力をとられたこともあり、人材育成という意味では、中坊主任研究員が日本有機資源協会のバイオマスタウンアドバイザーの講師として、研修・教育に取り組みました。

### (六) 会報の発行について

2006年度当初は、会報を年4回発行することで計画していましたが、NEDO事業への取り組みに忙殺され、結局計2回の発行にとどまりました。

### (七) その他

- (1) 第2回理事・監事懇談会兼忘年会の開催
  - ①第3回理事会及び運営委員会での確認に基づき、昨年12月27日、第2回の理事・監事懇談会と忘年会を開催致しました。  
懇談会での意見交換の主な内容としては、以下の通りでした

テーマ

—— 今後のNPO法人九州バイオマスフォーラムの在り方について ——

○普及・啓発や調査研究を活動の柱とした専門家集団的なNPO法人を考えていくのか、地域住民・市民を巻き込んだ幅広い市民参加型のNPO法人活動を目指していくのか今後の方向性につ

いて整理していく必要がある。

- 一定以上の収益とリスクが伴う事業については、ボランティア的参加で構成されている現在のNPO法人組織では責任を負えないのではないか。
- 現在、そうした公益的活動のNPO法人であるから、ある程度の人々の参加、協力が得られているのではないか。
- 一定以上の収益を目指した（当然リスクも伴う）事業を行なうとしたら、その目的に沿って形で株式会社なりを設立し、取り組むべきではないか。
- 循環型社会を目指すと言う基本理念が一致するならば、そうした株式会社とNPO法人が連携・協力し合い事業を進めるということもあり得るのではないか。

(2) 「エコテクノ 2006」や阿蘇市・南阿蘇村と協力してのバイオマスセミナーに取り組みました。

①エコテクノ 2006 (11月20日～23日 北九州)

11月20日～23日の期間に開催されたエコテクノ 2006にて、パネル展示とセミナー・シンポジウムを開催しました。パネル展示では約200名程度の来場者がありました。セミナーでは、約60名程度、シンポジウムは約180名程度の参加がありました。また、連絡会議などが併せて開催され、活動状況などについて、情報交換が行われました。

11月20日 九州地域バイオマス関係機関連絡会議 (吉田)

セミナー「日本初 草本系バイオマスエネルギー」 講演 中坊

11月22日 九州バイオマスタウンシンポジウム (中坊・清島)

11月23日 K-R I P 「拡大需要創出部会」 (中坊)

②バイオマスセミナー

2006年度は阿蘇市及び南阿蘇村と協力し、計4回のバイオマスセミナーに取り組みました。

4月22日 第1回阿蘇市バイオマスセミナー

10月7日 第2回阿蘇市バイオマスセミナー

12月5日 南阿蘇村バイオマスセミナー

12月20日 第3回阿蘇市バイオマスセミナー

(3) カナダバイオマス調査事業の取り組み

- ①2月から3月にかけて、ジェットロの補助を受けて、中坊真と三菱UFJリサーチコンサルティングの橋崎達也氏がカナダバイオマス利活用の実態調査のために現地調査に出向きました。
- ②KBFにとっては、今後の草本系バイオマスの利活用を考える上で非常に参考になる点が多かったようです。
- ③そうした結果をまとめて、3月19日に報告会を兼ねたシンポジウムを開催しました。参加者約40名でした。

(4) メタン発酵消化液散布実験の取り組み

- ①7月26日に野上氏の水田に、(株)西原商店のメタン発酵消化液の散布実験を行ないました。
- ②9月下旬から10月初旬に稲刈りを行い、収量や食味調査を行い、その効果についてのデータ分析を行ないました。

③その結果については、12月初旬に第3回阿蘇市バイオマスセミナーとして概況報告を行ないました。

### 三、事業報告

#### (1) 特定非営利活動に係る事業 (2006年4月1日～2007年3月31日)

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
広報・啓発事業	(1)会報の定期発行 200×2回	年2回	—	1	200	59
	(2)ホームページのリニューアル	随時	—	1	不特定多数	80
	(3)菜の花プロジェクト推進(講演会の開催)	平成18年10月	熊本	1	不特定多数	8
	(4)エコテクノ2006 バイオマス・ニッポン in 九州へのシンポジウムの主催及び企画協力	10月	北九州	3	70	87
	(5)バイオマス関連セミナー等の支援	年3回 4月、9月、12月	九州	2	110	1
	(6)視察・見学会の受け入れ	随時	阿蘇市 南阿蘇村	1	60名程度	—
	(7)カナダバイオマス調査	2月	カナダ	1	—	187
バイオマス利用地域モデル推進事業	(1)草本系バイオマス利活用システム	年間	阿蘇市	7	不特定多数	30,676
	(2)ストローベイルハウス建設事業	4月～11月	南阿蘇村	2	不特定多数	932
	(3)野草活用マニュアル作成事業	4月～9月	阿蘇郡	2	不特定多数	1,900
	(4)バイオマス利活用人材育成事業	7月～3月	阿蘇市 南阿蘇村	1	30	187
	(5)メタン発酵消化液散布 実験事業	4月～12月	阿蘇市 南阿蘇村	2	不特定多数	161
	(6)野草資源小委員会事務局運営	年1回	阿蘇市	2	17	—
交流事業 バイオマス関連製品普及促進事業	(1)各種イベント・セミナー等への講師の派遣	年1回 10月	東京	1	不特定多数	36

#### (2) その他の事業 (2006年4月1日～2007年3月31日)

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
関連資料の販売	書籍の販売	通年	—	1	—	0
その他	野草の販売	12月	—	1	5	368

#### 四、収支決算報告

別紙決算資料をご覧ください

#### 五、監査報告

別紙をご覧ください。

## 第二号議案 2007年度事業計画及び収支予算案決定の件

### 一、はじめに

- (一) NPO法人九州バイオマスフォーラムは、阿蘇・熊本の人々を中心に、「九州での循環型地域社会の創造」を目的に今から5年前に心ある有志が集い設立されました。
- (二) 最初の2～3年はHPでの情報発信やセミナー、シンポジウムの開催などの普及・啓発が活動の中心でしたが、一昨年より当時の中坊事務局長の努力により「草をエネルギーに変える実験事業＝NEDO事業」が具体化し、組織及び活動内容が大きく一変することとなりました。わずかに中坊事務局長1人だった専従事務局職員が、パート・アルバイトを含めると一挙に8～9名の体制になり、又、年間事業規模も1000万弱から3500万を超える規模になってきました。さらに、今年度には、新たに農水省の年間2500万円強の補助事業を受託する見通しとなっています。
- (三) 時代の潮流に合ったとはいえ、中坊前事務局長をはじめとする役員の人々の努力により、ある意味では、非常に順調に進んできているといえます。
- (四) しかし、一方では、人材の不足もあり、活動がどちらかと言えば技術的、専門的な部分に偏り、「循環型地域社会の創造」へ向けた社会的な運動及び活動の拡がりづくりと言う意味では非常に立ち遅れているともいえ、そうしたことも関連しKBFの組織基盤の広がりや作れずできています。
- (五) 又、事業の大部分を行政等からの委託事業や助成事業に頼ってきている為、KBF自体の自主的財政基盤という意味で、非常に弱い弱な点を抱えています。  
さらに、昨年度から、急に事務局体制が膨らんできたため、事務局を運営する側の認識の成長が追いつかなかつたり、制度システムの整備が追いついていない点があります。
- (六) 今年度は、そうした九州バイオマスフォーラムのこれまでの歩みと置かれている状況をよく見極め、九州バイオマスフォーラムの創立期から建設期への転換を図る年であるとも言えます。
- (七) さらに、今年度はNEDO事業の実質的な2年目となります。又、今年度新たに、農水省からの総額2,500万円の補助事業「九州バイオマス発見・活用促進事業」と(独)環境再生保全機構からの総額250万円の助成事業が採択されました。
- (八) 従って、今年度は総額約5,800万円の事業を行なうこととなります。  
しかし、これらは何れもつい先日内定又は採択されたばかりで、まだ詳細の詰めが出来ていません。
- (九) このため、本日の総会では、総額での年間予算をご提案、ご審議いただくことで準備させて頂いています。
- (十) 又、今年度は上記事業の実施とパート・アルバイトも含めると総勢9名にもふくらんだ事務局の運営、業務をスムーズに執行していくために、新たな事務局メンバーを採用し、事務局次長体制を設けています。
- (十一) こうした点を踏まえ、今年度こそは昨年末の理事・監事懇談会等での議論を深め、九州バイオマスフォーラム自身の地域(住民)に根ざした自主的な循環型地域社会作りの活動に着手していきたいと考えます。



## 二、2007年度の活動方針（案）

- (一) 昨年度の成果と課題を踏まえ、3年目に入るNEDOバイオマスエネルギー地域システム化実験事業を推進します。合わせて草資源流通センター事業の具体化についての調査を進めます。
- (二) 農水省の「九州バイオマス発見・活用促進事業」に取り組み、九州に於けるバイオマスの発見と利活用を進めます。
- (三) ファミリー銀行及び環境再生保全機構からの助成金を活用し、「ススキから紙を作る」プロジェクトで体験型環境学習活動に取り組みます。
- (四) 南阿蘇バイオマス推進委員会検討に積極的に参加すると共に、南阿蘇での菜の花プロジェクトの具体化に取り組みます。
- (五) ホームページによる情報発信と年3回以上の会報の定期発行に取り組みます。
- (六) 視察・見学会等の積極的な受入を行い、バイオマスについての普及・啓発に努めます。
- (七) メタン発酵消化液散布実験も継続して行ないます。

## 三、2007年度事業計画（案）

- (1) 特定非営利活動に係る事業（2007年4月1日～2008年3月31日）

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
広報・啓発事業	会報の定期発行 200×3回	年3回	—	1	200
	ホームページのリニューアル	随時	—	1	不特定多数
	菜の花プロジェクト推進（調査）	7月～ H20年3月	南阿蘇村	1	不特定多数
	九州バイオマス発見・活用促進事業	6月～ H20年3月	九州全域	3	不特定多数
	視察・見学会の受け入れ	随時	阿蘇市 南阿蘇村	1	多数
バイオマス利用地域モデル推進事業	草本系バイオマス利活用システム	年間	阿蘇市	3	不特定多数
	草資源流通センター事業の具体化	年間	阿蘇郡	2	不特定多数
	野草から紙を作るプロジェクト	6月～ H20年3月	阿蘇市	2	60
	メタン発酵消化液散布実験事業	4月～12月	阿蘇市 南阿蘇村	1	不特定多数
	野草資源小委員会事務局運営	年2回	阿蘇市	2	—
交流事業及びバイオマス関連製品普及促進事業	各種イベント・セミナー等への講師の派遣	年5回	全国	2	不特定多数

- (2) その他の事業（2007年4月1日～2008年3月31日）

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
バイオマスに関連する書籍等の販売	バイオマス関連書籍の販売	通年	阿蘇市他	1	90

#### 四、2007年度収支予算（案）

##### （1）特定非営利活動に係る事業

収入の部	2006年度実績 (単位 千円)	2007年度予算 (単位 千円)
1. 会費収入		
個人正会員	168	192
団体正会員	240	360
個人賛助会員	75	105
団体賛助会員	40	100
小計	523	757
2. 寄付金収入	0	0
3. 事業収入	35,477	57,924
NEDO事業	—	32,424
農水事業	—	25,000
視察・講演	—	500
4. その他の事業収入からの繰り入れ	126	40
5. 助成金収入（環境再生保全機構他）	577	2,900
6. 雑収入	6	0
経常収入合計	36,709	60,864

支出の部	2006年度実績 (単位 千円)	2007年度予算 (単位 千円)
1. 事業費支出		
NEDO事業	—	26,859
農水事業	—	23,750
紙プロジェクト	—	2,500
メタン発酵	—	100
事業費合計	35,075	53,209
2. 管理費	2,092	7,600
経常支出合計	37,167	60,809
収支（経常収入－経常支出）	▲458	55

消費税  
2,850千円含む

##### （2）その他の事業

収入の部	2006年度実績 (単位 千円)	2007年度予算 (単位 千円)
1. 書籍の販売	20	240
2. 野草の販売	474	0
収入合計	494	240

(2) その他の事業

支出の部	2006 年度実績 (単位 千円)	2007 年度予算 (単位 千円)
1. 書籍の販売	—	200
2. 野草の販売	—	0
支出合計	368	200

### 第三号議案 役員（監事）改選の件

昨年新しく監事になって頂いた(株)近代経営研究所の松崎取締役には、今年度からは当NPO法人の顧問税理士として経理事務及び決算処理と税務申告の指導に専念頂くこととし、今年度より新たに下記の方を監事として選任頂きたくご提案いたします。

監事 鷲岡 嶺照氏（西巖殿寺住職）

### 第四号議案 借入金最高限度額決定の件

- (一) 今年度は、新たに農水省の九州バイオマス発見・活用促進事業が加わり年間事業規模も 6000 万円を超えられると思われま。
- (二) 従って、借入金最高限度も、昨年度よりは、1500 万円増額し、3000 万円として承認頂きたいと考えます。

### 第五号議案 定款変更の件

#### 一、変更の理由

- (一) 現在、主たる事務所として使わせて頂いているグリーンストックの赤水事務所が賃貸借契約の更新に当たり、2月より3回に渡りJRとの協議が行なわれましたが、最終的には現在より大幅なグリーンストックの収入減と費用負担増につながる条件が提示されたため、グリーンストックとしてはJR赤水駅事務所を移転・引越しをせざるを得なくなりました。
- (二) 幸い、すぐ近くの国道57号線沿いの下記の旧JA永水事務所が比較的良い条件で貸していただけることになりましたので、グリーンストックでは、6月末には引越しされることになっています。
- (三) このため、現在の九州バイオマスフォーラムとしても、定款第2条の主たる事務所の変更が必要と考えています。

#### 二、定款の変更

以上の事情により、現在の定款第2条のNPO法人の主たる事務所を下記の通り変更させて頂きたいと考えます。

変更前 この法人は、主たる事務所を熊本県阿蘇市赤水字大堀 965-10 赤水駅舎内に置く。

変更後 この法人は、主たる事務所を熊本県阿蘇市的石 1537 番 1 グリーンストック事務局内に置く。

以上

**新事務所の住所・連絡先**

阿蘇市的石 1 5 3 7 番 1

TEL・FAX 番号はそのままです。

TEL 0967-35-1128 FAX 0967-35-1151